

◇これからの放送予定◇

第535回 1月23日放送

交響連章「歳時記」後編

司会 山本直純

ゲスト 黛敏郎他

演奏 新日本フィルハーモニー交響楽団

第536回 1月30日放送

ミシェル・シュヴァルベ シリーズI

司会 高島忠夫

ゲスト ミシェル・シュヴァルベ 安永徹

演奏 新日本フィルハーモニー交響楽団

演奏曲目 J・S・バッハ「2つのバイオリン
のための協奏曲ニ短調」

第537回 2月6日放送

ミシェル・シュヴァルベ シリーズII

司会 高島忠夫

ゲスト ミシェル・シュヴァルベ 安永徹

演奏 新日本フィルハーモニー交響楽団

演奏曲目 R・シュトラウス「英雄の生涯」
op40から第一部・第三部

スポンサーから一言

インテリアにマッチした

電話はいかが

外国映画を見ると実にイキ

なデザインの話機がでて

きます。デパートなどで購

入したインテリア電話機で

も、認定マークのある製品

なら、電話局へ届けるだけ

で使用OK!

これからは、インテリアに

合わせて自由に電話機を選

べるなんて楽しくなります

ね。

すべての道を手中におさめたい

スバルは、早くから4WDの可能性に着目しています。ドライバーが、現在手にし得る最も進んだ、最も手ぬきのない、どんな状況のもとでも速く確実に走りきる車を創る、そんなポリシーに憑かれたスバルの現在の答えがレオーネ4WDターボです。

他の車では真似のできない走りど、しかも止まることに優れた4WDメカニズム。そして初体験のドライバーでも乗った瞬間から、潜在ポテンシャルの一端に触れることのできるハイグレードなイーゼードライブ性。

すべての道を、しなやかに安全に手中におさめます。レオーネ4WD、速く確実に走る4WD。

あると便利ですね。
2階にも電話。



1本の電話が2~3台で使える
ホームテレホンF

*お問い合わせはお近くの電話局へ。

電電公社

SUBARU



4WDターボ誕生。

劇的に高速4WDツアラー。圧巻のオールラウンダー。



未踏の走りテクノロジー

LEONE
4WD TURBO

中央スバル自動車株式会社
☎ (03) 448-4411

東京スバル自動車株式会社
☎ (03) 814-7111



Photo: レオーネ4WDターボAT4ドアセダン、814 (アルミホイールはオプション)

オーケストラが
やって来た

- 司会 高島忠夫
- ゲスト 井上道義(指揮)
ミシェル・シュヴァルベ(ヴァイオリン)
安永徹(ヴァイオリン)
- 演奏 新日本フィルハーモニー交響楽団
- 総合司会 斎藤 勉
- 主催 東京放送
- 提供 電電公社
富士重工

第536回

ミシェル・シュヴァルベ シリーズ(1)

—教育者として—(仮題)

放送日 1月30日(日)

シュヴァルベ氏は、最近フランス文化省の要請で、フランスの音楽教育の中核であるコンセルヴァトアールに招かれて、そこの教育者を統括する地位に就任するだろうと目されています。他国のオーケストラのコンサート・マスターを招いて、自国の音楽教育の方針をあらためようとするのは、文化的誇りの高いフランスとしては、よほどのことなのですが、それだけシュヴァルベ氏が教育者としての秀でた才能の持主だと言うことになりましょう。

かつて、シュヴァルベ氏から、きびしい教えを受けた安永徹氏の協演を得まして、具体的な教育方法をうかがいながら、師弟による協奏曲を演奏していただきます。

曲目 J・S・バッハ作曲「2つのヴァイオリンのための協奏曲ニ短調」

第537回

ミシェル・シュヴァルベ シリーズ(2)

—コンサートマスターとして—(仮題)

放送日 2月6日(日)

シュヴァルベ氏といえば、難曲中の難曲R・シュトラウス「英雄の生涯」のヴァイオリンソロとして、世界のクラシック音楽ファンに知られる存在です。巨匠ヘルベルト・フォンカラヤン氏と組んだその演奏は、まさに比類のない音色だといわれます。

1957年、シュヴァルベ氏は、ベルリン・フィル音楽監督、カラヤン氏の強い要望で、スイス・ロマン管弦楽団から、ベルリン・フィルのコンサート・マスターに就任しました。ベルリン・フィル移籍直後、シュヴァルベ氏は、カラヤン氏から、「君がソロを弾くのだ」といって、ひとつの譜面を渡されました。それがシュヴァルベ氏と「英雄の生涯」という曲の運命的な出会いでした。さて、シュヴァルベ氏自身がたどった運命は……。

曲目 R・シュトラウス作曲「英雄の生涯」op40からその第1部と第3部

第538回

ミシェル・シュヴァルベ シリーズ(3)

—ソリストとして—(仮題)

放送日 2月13日(日)

今回は、日本でも音楽愛好家に最も人気があり、皆さんもよくご存知のヴィバルディ作曲「四季」をお送りします。

ソリストとして、シュヴァルベ氏はもちろん、いくつかのレコードを作っていますが、なかでもカラヤン氏と組んだ「四季」は傑作といわれ、名演奏でよく知られています。

この曲で珍しいのは、ヴァイオリン協奏曲でありながら標題音楽であるという点で、ヴィバルディ自身が書きこんだ情景の言葉が有名です。シュヴァルベ氏に、何人かの他のヴァイオリニストの解釈で実演しながら、ご自分の解釈で「四季」を演奏、解説していただきます。

曲目 ヴィバルディ作曲「四季」から〈冬〉の第1、2、3楽章、〈春〉第1楽章



～1月23日の放送内容紹介～

第535回 交響連章「歳時記」後編

「オーケストラがやって来た」が特別依頼した日本の作曲家12人が、交響連章「歳時記」と銘打ちました“新曲”を披露いたします。

これは、芥川也寸志氏が提案したモチーフ、即ち山本直純氏の「ひげH・I・G・E」を(それぞれH、G、Eの音、Iはないので作曲家が自分で選んだものを入れます)基に、自分の生まれた月の季節感を織り込んでつくった曲です。12の曲が集まると、自ずと、音の「歳時記」となります。

さて、今回はその後編、7月から12月になります。作曲家は、7月三枝成章氏、8月中田喜直氏、9月池辺晋一郎氏、10月林光氏、11月八木正生氏、12月諸井誠氏です。ご期待ください。



ミシェル・シュヴァルベ氏

ミシェル・シュヴァルベ MICHEL SCHWALBE

1919年、ラドム(ポーランド)に生まれた。少年期から早くも音楽の天分をあらわし、ワルシャワの音楽院で初めてのコンサートを行ない、その後次々にオペラ協会や国立放送局でコンサートを行なって大成功を収めた。ワルシャワ高等音楽学校でM・フレンケル教授(レオポルド・アウアー氏の弟子)に師事し、13歳でこれを修了、'33年末パリに留学。'35～'36年ヴァイオリンをジョルジュ・エネスコ氏に、室内楽をピエール・モントゥー氏に学んだ。'36年、パリ国立音楽院に入学。'38年、サラサーテ賞を獲得するとともに、第一位で卒業。'44年からスイスの音楽界に登場。スイス・ロマン管弦楽団の首席ヴァイオリン・ソリストとして活躍。さらに、弦楽四重奏団を結成し、時を経ずしてスイスの聴衆の評価を得た。'57年ベルリン・フィルのコンサート・マスターに就任、現在に至る。

安永 徹

1951年、福岡県生まれ。'64年より、江藤俊哉氏に師事。桐朋学園高等部音楽科を経て、同大学音楽部入学。'71年、第40回音楽コンクール第一位入賞。'74年、大学卒業後ヨーロッパへ渡り、ベルリン音楽大学入学。ミシェル・シュヴァルベ氏に師事。'77年、ベルリン・フィルの入団試験に合格、第一ヴァイオリンとして入団。将来コンサート・マスターとして期待されている英才である。

井上道義

1946年、東京生まれ。幼少の頃よりピアノ、バレエ、演劇等に興味を示す。桐朋学園高等部音楽科を経て、同大学指揮科入学。故斎藤秀雄氏に師事。'69年、東京都交響楽団副指揮者に就任。'71年、渡欧。イタリアのミラノにて、「スカラ座」主催の第6回「グイド・カンテルリ記念指揮者コンクール」にて優勝、一躍内外の注目を集めた。その後、ヨーロッパ各地で活躍。'76年、日本デビュー。'78年、再渡欧。現在に至るまで、国内外で活躍。又、邦人作品の演奏に意欲的に取り組む。